

新幹線で いいもの さがし

こども記者団 青森

札幌市内の小学生が北海道新幹線に乗って沿線の東北各地取材する「まなぶんこども記者団」（札幌市主催）が10月14、15の両日、青森と岩手を訪れました。2班に分かれ、それぞれ観光施設などで、各地の伝統や文化にふれた様子を2回にわたってしようかいます。

青森班は、伊藤理央さんと菊谷美月さん、三角晏生君、横島歩夢君の5年生4人で15日、青森市内の三内丸山遺跡を訪ねました。

この遺跡は、縄文時代前期から中期（5500年前〜4千年前）の大規模な集落跡です。竪穴住居跡や多くの石器、土器などが見つかり、2000年に国の特別史跡に指定されました。竪穴住居は、地面をほってつくられた建物です。

「みなさんが歩くのは縄文時代の人が作った道ですよ」と、青森県教育委員会文化財保護課の岩田安之さんが案内してくれました。道沿いに住居やお墓、いろいろな施設が並び、岩田さんは「計画的にまちづくりが行われていたのが分かります」と説明しました。

縄文時代はまだ米づくりが行われず、動物の狩りと植物の採集で暮らしていました。それでも岩田さんによると、遺跡からはムササビや野ウサギ、ブリやサバなどの骨が見つかり、

三内丸山遺跡 縄文ロマン体験

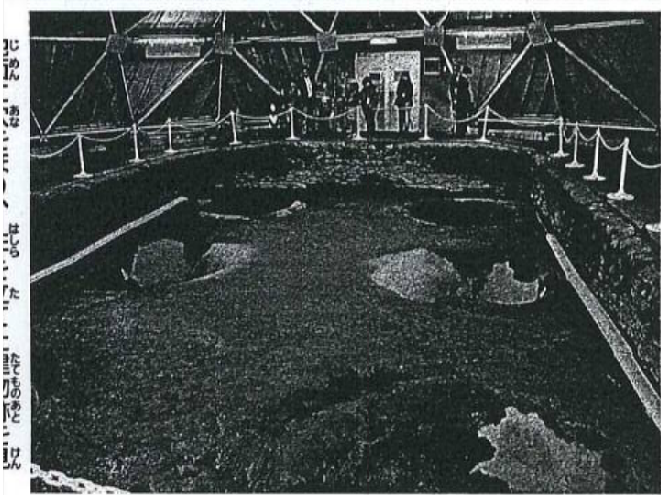


みんなで相談して作戦を練っていたんじゃないかな」と想像しました。狩りに使った石器は、オホーツク管内遠軽町白滝産とみられる黒曜石がやじりに加工されるなど、北海道とも関わりがあります。縄文時代から、かなり広い範囲で集落同士の交流があったようです。菊谷さんは「昔は交通が不便で遭難するかもしれない、黒曜石がとても貴重だと分かりました」。また、遺跡内には長さ約30メートルの大型の竪穴建物跡や、高さ15以上に復元された建物もあります。

まがたま ちようせん 勾玉づくりも挑戦

「まがたま」記者の報告全文は「北海道新幹線つながるNAVIE」(<http://hokkaido-shinkansen-navi.jp/>)で読めます。

今回の体験で使ったのは「滑石」という加工しやすい石です。目のあざのちがう種類の紙ヤスリを使って、おおまかな形にした後、ひたすらみがいて仕上げていきます。みんな約1時間で完成。三角君は「つかれたけど、自分だけの勾玉ができてうれしかった」と笑顔を見せました。



三内丸山遺跡の発掘現場。縄文時代の生活様式が垣間見える。